

3. 小中一貫教育の研究を進め、その導入を図る。

4. スクールバスの導入を図り、通学対策を総合的に講じる。

5. 多久市の特色を生かした学習ができるような創意工夫をする。

6. 跡地や跡施設は、地域活性化につながる活用を検討する。

付帯意見

中間答申後、該当地域への説明会を開催し多くのご意見を頂戴した。統廃合校をもつ地域の多くがそれぞれ悠久の歴史を有し、昭和29年5月1日、5ヵ町村が合併し、大きな期待と希望のうちに多久市が誕生したものの、郷土に対する愛情と誇りを失わず現在に至っている。

中でも、小学校は、その多くが明治初頭に開校されたものであり、地域においては単なる教育施設としてではなく郷土意識の発信地でありまた集積の場でもある。

学校の統廃合により地域社会の中軸を失うことは、そこに深く関わる人たちにとっては、いわば「身を裂かれるような感慨があり、現在及び未来への希望を失うことにもなりかねないという面がある」との心配の

声を理解することも大切である。

検討の過程の中では、次のような意見も出された。

・ 地域では統合について不安感もあり、まだいろいろな検討も必要ではないか。

・ 複式学級になると教育の十分な効果が得られにくいので回避すべきである。

しかしながら、学校の統廃合問題は、現在直面している地域ばかりでなく、近い将来多久市全域に関わる問題となることは、統計を見る限り予測される状況にある。

そこで、それぞれの地域感情には十分な理解と敬意を払いつつも、学校はやはり子どもたちのためのものであり、子どもたちの未来に向けて、より望ましい教育環境を提供することが急務であると、我々は考えるものである。

本答申を実行するに当たっては、特に次の点を行行政、市民が一体となつて取り組む必要があると考え

1. 統廃合について

学校は子どもたちに望ましい教育環境を提供することを第一に考えての答申であるが、学校が地域で果たしてきた歴史的役割や地域事情に配

慮し、保護者や地域住民と十分に協議を重ね、共通理解を得て進められたい。

2. 校舎建設、既存校舎の改築について

校舎建設、既存校舎の改築については、教育現場等と十分協議し一貫教育の効果を発揮できる施設にすること。

3. 小中一貫教育について

小中一貫教育の研究については、これまでの多久市で積み上げられてきた「小中連携教育」を基盤にしなが

ら、研究を深め導入を図ること。
小中一貫教育については、現在も全国各地で実施されたり検討を図られていたりしている事例も多くあることから、導入に向けて参考となる事例も研究し、よりよい小中一貫教育となるよう積極的に取り入れていくこと。

4. スクールバスの導入について

スクールバスの導入については、登下校に要する時間が長くなることによる児童生徒の安全安心及び通学に係る心身の負担等も考慮して、総合的に検討を行うこと。

また、放課後児童クラブの児童の活動場所とのかねあいについても、

適切に判断して導入を行うこと。

検討に際しては、スクールバスが効果的に活用できるよう、「ふれあいバス」での活用も考慮し、それぞれの地域や保護者の実情に応じて行うこと。

5. 多久市の特色を生かした学習

多久市の特色を生かした学習については、多久市民の育成の基礎となる、多久の歴史、偉人、史跡、文化、産業等、義務教育9年間を通して学習する「(仮称)多久学(多久ならではの特色ある教育)」についても研究を進めていくこと。

なお、具体的な内容については、学校、地域や子どもたちの実態を考慮しつつ、これまで各校で取り組んできた「総合的な学習の時間」の成果も生かせるよう検討を進めること。

6. 跡地や跡施設の活用

閉校になる校舎や施設の再利用・有効利用を、市民とともに検討し、利用者が絶えない、笑顔に満ち溢れた活動等の拠点となる施設を実現するように努めること。